

(国)349号丸森地区災害復旧事業「山側への別ルート」
令和8年1月31日供用開始



宮城の道路 2026

ROAD IN MIYAGI 2026
道路事業の概要



(国)113号福岡蔵本工区
令和7年11月14日供用開始



(主)気仙沼唐桑線化粧坂工区
令和8年3月完成



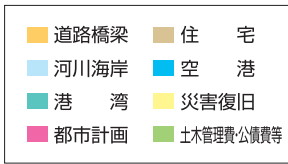
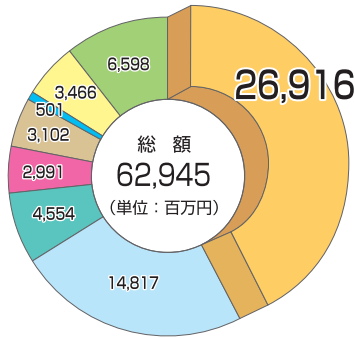
宮城県



(主)鹿島台高清水線牛飼工区
令和8年3月14日供用開始

令和8年度土木部・道路課の予算概要

土木部予算（一般会計）における予算割合

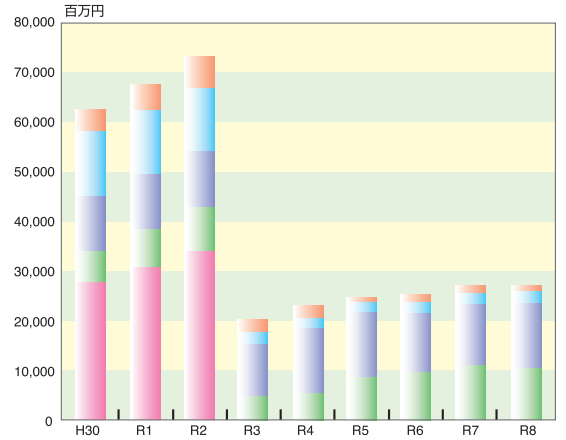


令和8年度道路課事業費（一般会計）

単位：百万円

	R8年度当初
道路橋梁費	26,916
補助事業費(通常分)	10,593
単独事業費	13,049
直轄事業負担金	2,398
その他	876

事業費(当初)の推移



	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
補助事業費(復興分)	27,753	31,144	34,083	—	—	—	—	—	—
補助事業費(通常分)	6,051	7,035	8,702	5,049	5,207	8,674	9,607	10,787	10,593
単独事業費	11,366	11,225	11,530	10,407	13,455	13,189	12,096	12,614	13,049
直轄事業負担金	13,180	13,180	12,839	2,208	2,208	2,208	2,208	2,313	2,398
その他	4,308	4,967	6,407	2,547	2,225	798	1,606	1,208	876
計	62,658	67,551	73,561	20,211	23,095	24,869	25,517	26,922	26,916

宮城県の道路整備状況

宮城県内の高規格道路

(R8.3)[単位：km]

路線名	予定路線	基本計画(重複除く)	供用延長	整備率(%)
高速自動車国道(A)	218.6	179.6	179.6	100.0
東北縦貫自動車道	131.9	131.9	131.9	100.0
東北横断自動車道	26.2	26.2	26.2	100.0
常磐自動車道	60.5	21.5	21.5	100.0
高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路(A')	(38.3)	38.3	38.3	100.0
仙台東部道路(常磐道)	(24.8)	24.8	24.8	100.0
仙台北部道路(常磐道)	(13.5)	13.5	13.5	100.0
一般国道の自動車専用道路(B)	126.8	126.8	126.8	100.0
三陸縦貫自動車道	126.8	126.8	126.8	100.0
高規格道路 計	345.4	344.7	344.7	100.0

※整備率=供用延長/基本計画延長(重複除く)
※()書きは、重複延長のため、合計延長に含まない。

左記以外の高規格道路

(R8.3)[単位：km]

路線名	計画路線				整備率(%)
		調査区間	整備区間	供用延長	
みやぎ県北高速幹線道路	24.0	0.5	0.0	18.9	78.8
石巻新庄道路					0.0
仙台東道路					0.0
仙台西道路	5.0			5.0	100.0
仙台南部道路	11.0			11.0	100.0
その他					0.0
高規格道路 計	40.0	0.5	0.0	34.9	87.3

※整備率=供用延長/計画路線延長

一般道路の整備状況

宮城県全体

道路種別	実延長(km)	改良		舗装		歩道設置の道路	
		改良率(%)	改良済延長(km)	舗装率(%)	舗装済延長(km)	設置率(%)	延長(km)
国 道	1,439.4	98.7	1,421.3	100.0	1,439.3	53.6	771.9
県 道	2,338.3	91.4	2,138.0	99.0	2,314.7	54.1	1,266.1
国県道計	3,777.7	94.2	3,559.3	99.4	3,754.0	53.9	2,038.0
市町村道	21,857.3	71.7	15,661.6	77.0	16,829.4	13.3	2,905.4
合 計	25,635.0	75.0	19,220.9	80.3	20,583.4	19.3	4,943.4

令和7年3月31日現在

「宮城県新広域道路交通ビジョン」・「宮城県新広域道路交通計画」

平成30年3月道路法改正により、平常時・災害時を問わない安定的な輸送を確保するために、「重要物流道路制度」が創設されました。

一方で、人口減少社会や災害リスクへの対応、自動運転等の新技術の発展といった社会情勢の変化等を踏まえた道路ネットワーク計画の再構築が必要となっています。

こうした状況を踏まえ、本県の中長期的な観点で広域的な道路交通の方向性を定めた「宮城県新広域道路交通ビジョン」及び、今後の本県の道路交通マネジメント等の基本となる具体的な計画として「宮城県新広域道路交通計画」を策定しました。

宮城県新広域道路交通ビジョン

基本理念

強靱で災害に強く、富県宮城を支える広域的な道路交通ネットワークの構築

3つの基本方針

広域道路ネットワーク

- 富県宮城を支える拠点性の高い都市・交通拠点・交通ターミナルへのアクセス性向上
- 災害時におけるネットワークの代替機能強化

交通・防災拠点

- ターミナル性の高い交通結節点の強化支援
- 広域防災拠点や防災道の駅との連携

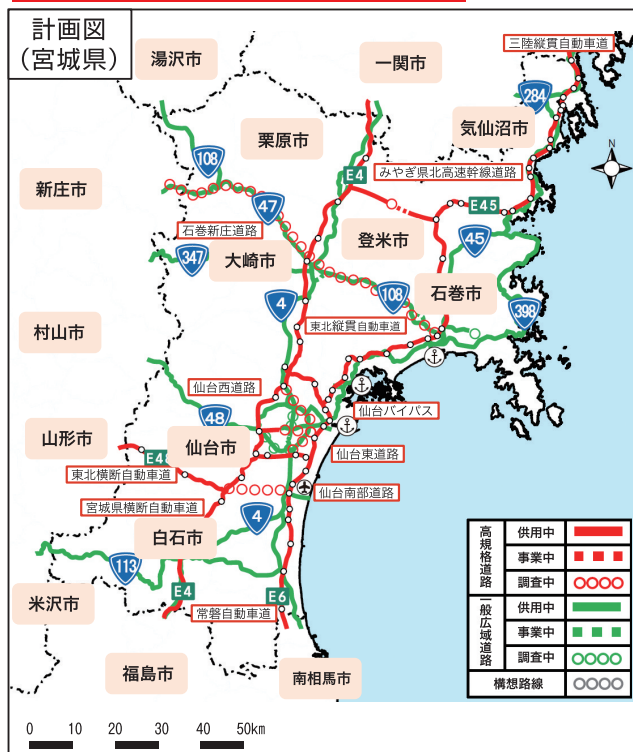
ICT交通マネジメント

- ICT等を活用した道路の情報収集や活用
- スマートシティやMaaSの早期社会実装
- 都市交通及び交通弱者対策へのビッグデータの活用

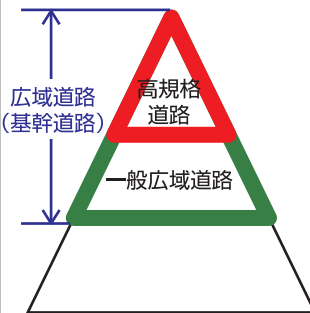


宮城県新広域道路交通計画

広域道路ネットワーク計画



広域道路のタイプ



■本県における広域道路ネットワーク計画における考え方

- ▲ **高規格道路** (サービス速度 V=60km/h以上)
 - 既存の東北縦貫自動車道などの高規格幹線道路及び現在整備中や計画中の路線も含めた地域高規格道路から選定
 - ※地域高規格道路の候補路線については、必要性や代替機能を有する現道の有無を整理した上で選定
- ▲ **一般広域道路** (サービス速度 V=40km/h以上)
 - 高規格道路と共にダブルネットワークを形成する路線(直轄国道)
 - 広域交通の拠点となる都市を連結する道路(仙台市、山形市など)
 - 重要な空港・港湾等を連結する道路(仙台空港・仙台塩釜港など)

交通・防災拠点計画

- 仙台駅周辺の交通結節機能強化
- 広域防災拠点の整備
- 道路とBRTの連携施策
- 「防災道の駅」の選定に向けた調整

ICT交通マネジメント計画

- 宮城県渋滞対策連絡協議会の進化
- 仙台市泉区におけるスマートシティ事業
- ETC2.0プローブ情報を活用した交通安全対策
- 仙台 MaaS・仙台圏での観光型 MaaS

高規格道路の整備状況

三陸沿岸道路（復興道路）（国施工）

三陸沿岸道路は、復興道路として位置付けられ、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして加速度的に整備が進められました。令和2年度は、小泉海岸ICから本吉津谷IC間の2.0km区間が令和2年11月に開通しました。また、気仙沼ICから唐桑半島IC間の7.3km区間が令和3年3月に開通し、県内区間が全線開通しました。

三陸沿岸道路の開通により、災害時にも緊急輸送道路として機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、地域経済の活性化や観光振興など、東日本大震災からの復旧・復興にも大きく寄与しました。



三陸沿岸道路(小泉海岸IC～本吉津谷IC間)令和2年11月 開通



三陸沿岸道路(気仙沼港IC～唐桑半島IC間)令和3年3月 開通

常磐自動車道（NEXCO東日本施工）

常磐自動車道は、首都圏と本県を結び、東北自動車道とともにラダー型のダブルネットワークを形成する重要な路線です。県内区間のうち、相馬ICから山元IC間が平成26年12月に開通し、県内区間が全線開通しました。また、平成28年度に事業着手した仙台東部道路を含む山元ICから亘理IC間の4車線化が令和3年3月に完了しました。

常磐自動車道の開通により事故や災害、異常気象時の代替ルートが確保されるとともに、企業立地拡大や観光活性化、物流効率化など、様々な整備効果が現れており、東日本大震災からの復旧・復興にも大きく寄与しました。

また、高速道路利用者の利便性向上を目的に、スマートICの整備も進められており、平成27年度には鳥の海スマートIC、平成29年度には山元南スマートICが開通したほか、令和6年3月には山元南スマートIC～山元IC間の4車線化が事業化されました。



常磐自動車道(山元IC～亘理IC間)令和3年3月 4車線化



山元南スマートIC 平成29年4月 開通

みやぎ県北高速幹線道路（復興支援道路）（県施工）

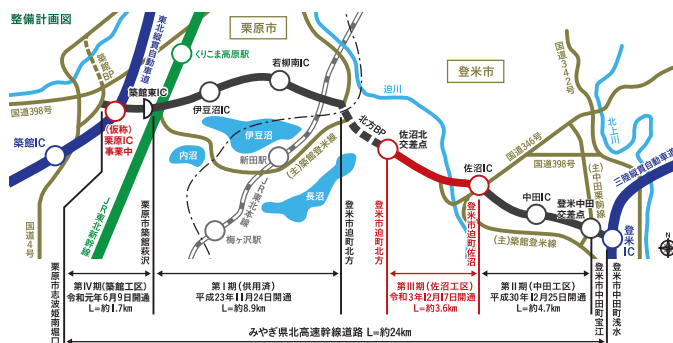
みやぎ県北高速幹線道路は登米地域と栗原地域を東西に結ぶ全長約24kmの高規格道路であり、被災地の復興支援や災害時における救助・救援活動、救援物資輸送等を担う「復興支援道路」として位置付けられています。

既に開通済みのI期区間（栗原市築館萩沢～登米市迫町北方）、II期区間（登米市迫町佐沼～登米市中田町宝江）、及びIV期区間（栗原市志波姫南堀口～栗原市築館萩沢）に加え、令和3年12月にIII期区間（登米市迫町北方～登米市迫町佐沼）が開通しました。

また現在、東北自動車道へ直接乗り入れができる新たなインターチェンジ（仮称）栗原インターチェンジの整備も進めており、高規格道路ネットワークの更なる強化が期待できます。



III期(佐沼工区)



宮城の道づくり基本計画

東日本大震災からの10年目という節目を迎え、将来の宮城のあるべきすがたや目標の実現に向け、取り組むべき施策を明らかにする「新・宮城の将来ビジョン」が策定され、県政運営の方針が見直されました。これを機に土木・建築分野の計画として「宮城県土木・建築行政推進計画(2021～2030)」が策定され、道路部門の個別計画として、「宮城の道づくり基本計画」を策定しました。

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間における道路のあり方を示すものであり、県政運営の理念等の実現に向け、道路の目指す将来像や基本方針・基本目標を定め、道づくりに関する取組や方策を整理しています。

また、令和6年度には前期期間の終期を迎えたことから、社会情勢の変化等を踏まえ、事業候補箇所等の見直しを実施しました。



施策体系図

新・宮城の将来ビジョン

■県政運営の理念

富県躍進!“PROGRESS Miyagi” ～多様な主体との連携による活力ある宮城を目指して～

宮城県土木・建築行政推進計画(2021～2030)

■基本理念

次世代に「安全・安心」と「活力」を引き継ぐ、持続可能なみやぎの県土づくり

■基本目標

基本目標 1

自然災害リスクの増大を踏まえた防災・減災対策による県土の強靱化

基本目標 2

富県躍進を支える交流・産業基盤の整備

基本目標 3

多様な主体と連携した持続可能な地域生活基盤の整備

基本目標 4

加速化するインフラの老朽化に対応した戦略的ストックマネジメントの推進

基本目標 5

持続可能なみやぎの県土づくりを支える人材育成と生産性の向上

宮城の道づくり基本計画

■道路の目指す将来像

①防災減災分野

『防災減災機能を備えた県土整備』

②産業振興分野

『経済・交流の活性化, 交流人口の拡大』

③地域生活分野

『地域の視点・ニーズに沿った道路環境の充実』

④維持管理分野

『道路の安全性・信頼性の確保』

■道づくりの“基本方針”

“富県躍進” ～未来へつながる道づくり～

次世代に安全・安心と活力を引き継ぐ、持続可能な宮城の県土を支える道づくりを推進

災害時にも有効に機能する防災道路ネットワークの推進

宮城の更なる発展につなげる富県道路ネットワークの推進

安全安心と持続可能な地域づくりを支える道路の整備・管理

■基本目標ごとの道づくりの取組

基本目標 1 安全

災害に強い道づくり

取組① 災害に強い道路網の構築

取組② 「道の駅」の整備による地域防災拠点整備への支援

取組③ 橋梁耐震化対策の推進

基本目標 2 活力

富県躍進を支える道づくり

取組④ 東北・県土の骨格となる高速道路網の整備

取組⑤ 地域の発展を支え、地域間連携を強化する道路の整備

取組⑥ 交流人口拡大に向けた道路の整備

基本目標 3 生活

地域生活を支える道づくり

取組⑦ 地域住民の生活に密着した道路の整備

取組⑧ 地域住民等と連携・協働した道路の整備

取組⑨ 安全で快適に暮らせる市街地の整備

基本目標 4 管理

戦略的ストックマネジメントによる道づくり

取組⑩ 道路施設の適正な維持管理の推進

取組⑪ 道路施設の長寿命化対策の推進

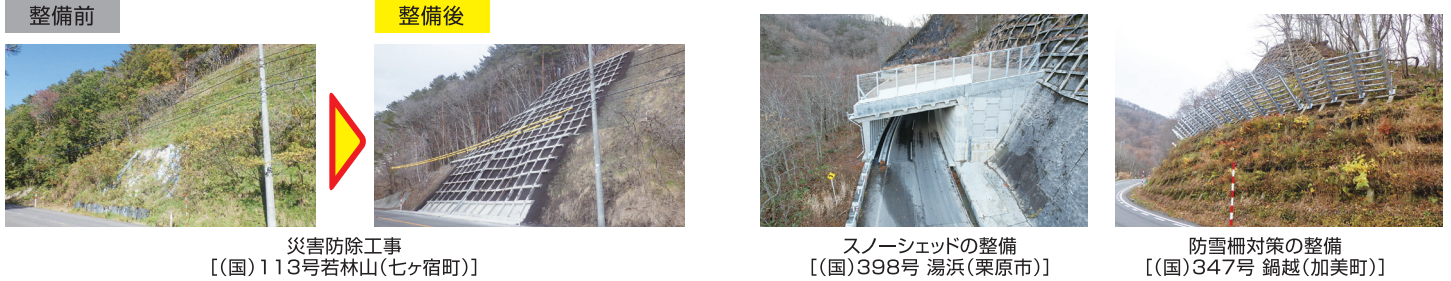
取組⑫ 新技術を活用した道路施設の更新・管理

基本目標1 【安全】災害に強い道づくり

取組① 災害に強い道路網の構築

道路寸断による孤立集落の発生や避難・救助活動等への支障とならないよう、引き続き災害に強い道路網の構築を推進します。特に、緊急輸送道路のうち、県際・郡界道路や離半島部の道路について重点的に整備を推進します。

- 改築事業 (国)457号(若出山矢木)、(国)457号(一迫西沢)、(主)女川牡鹿線(大谷川浜小積浜)、(主)石巻鮎川線(風越Ⅲ)、(一)北上河北線(牧野巣) 他
- 雪寒事業 (国)398号(湯浜) 他 ● 災害防除事業



整備前
災害防除工事
[(国)113号若林山(七ヶ宿町)]

整備後
スノーシェットの整備
[(国)398号 湯浜(栗原市)]

整備後
防雪柵対策の整備
[(国)347号 鍋越(加美町)]

(主)女川牡鹿線 大谷川浜小積浜工区

(主)女川牡鹿線は女川町の一般国道398号を起点とし、石巻市大原浜の主要地方道石巻鮎川線に至る、幹線道路であり、牡鹿半島地域の観光や産業振興を担う重要な路線です。(主)女川牡鹿線大谷川浜小積浜工区については、牡鹿半島において、災害時にも有効に機能する防災道路ネットワークの構築に向け、平成29年度に事業化し、主要地方道石巻鮎川線と女川牡鹿線を東西に結ぶ、全長約1.8キロメートル、車道幅員6メートルのバイパス道路の整備を鋭意推進しています。整備によって地域の連携強化が図られるとともに、地域の安全安心の向上が期待されます。



事業中区間



トンネル施工状況

取組② 「道の駅」の整備による地域防災拠点整備への支援

国土交通省では、「道の駅」の防災機能強化を推進しており、本県においても県管理道に設置されている「道の駅」について、防災機能強化を目的に情報提供設備等の整備を支援しています。

また、市町村等と連携し、令和3年9月に創設された道路法第48条に基づく「防災拠点自動車駐車場」制度を活用するなど「道の駅」の防災機能の更なる充実を目指します。

設置状況



情報提供モニター

防災情報画面

宮城県内の道の駅一覧 (令和8年3月現在)

No	駅名	設置者	路線名	道路管理者
1	七ヶ宿	七ヶ宿町	(国)113号	県
2	津山	登米市	(国)45号	国
3	三本木	大崎市	(国)4号	国
4	路田里はなやま	栗原市	(国)398号	県
5	大谷海岸	気仙沼市	(国)45号	国
6	おおさと	大郷町	(主)大和松島線	県
7	米山	登米市	(国)346号	県
8	あ・ら・伊達な道の駅	大崎市	(国)47号	国
9	林林館	登米市	(国)346号	県
10	上品の郷	石巻市	(国)45号	国
11	みなみかた	登米市	(主)古川佐沼線	県
12	村田	村田町	(主)巨理大河原川崎線	県
13	三滝堂	登米市	(国)45号	国
14	おおさき	大崎市	(国)108号	国
15	かくだ	角田市	(一)角田山下線	県
16	おながわ	女川町	(国)398号	県
17	碗上の里おがつ	石巻市	(一)釜谷大須雄勝線	県
18	さんさん南三陸	南三陸町	(国)398号	県
19	東松島	東松島市	市道百合子線	市

取組③ 橋梁耐震化対策の推進

緊急輸送道路といった重要道路の安全確保や避難路確保のため、引き続き、「宮城県橋梁耐震化計画」に基づき橋梁耐震化を推進します。特に、阪神淡路大震災以前の基準で整備された緊急輸送道路における橋梁を中心に耐震化を推進します。



整備前
川内大橋 [(国)286号(川崎町)]

整備前
花見橋 [(国)346号(気仙沼市)]

基本目標2【活力】富県躍進を支える道づくり

取組④ 東北・県土の骨格となる高速道路網の整備

本県ではこれまで、国土の骨格となり経済の発展や交流人口の拡大を支える高規格幹線道路を基軸としたネットワークの形成を促進してきました。今後も、更なる宮城の発展を目指し、東北・県土の骨格を形成する高規格幹線道路網の機能強化・利便性向上を進めます。

(仮称)栗原IC

みやぎ県北高速幹線道路から東北自動車道へ直接乗り入れできる新たなインターチェンジを整備し、内陸部と沿岸部を結ぶ広域道路ネットワークの更なる強化、地域の産業経済活動や観光交流の活性化を図ります。

県が工事を委託している東日本高速道路株式会社が、令和5年度からインターチェンジ本体工事に着手しており、早期供用に向けて、事業を推進します。



(完成イメージ)

菅生スマートIC

令和5年3月25日に供用開始した「菅生スマートインターチェンジ」は、東北自動車道「村田インターチェンジ」と「仙台南インターチェンジ」のほぼ中間に設置されている「菅生パーキングエリア」に休憩施設接続型のETC専用ICとして接続しております。

「菅生スマートインターチェンジ」の供用開始により、高速道路へのアクセス時間が短縮されることで、地域振興や第三次救急医療施設へのアクセス性向上、仙台空港の利便性向上などの効果が期待されています。



取組⑤ 地域の発展を支え、地域間連携を強化する道路の整備

高規格幹線道路を補完する地域高規格道路や広域地域間・空港・港湾等とのアクセス性を向上させる広域道路網等の整備・機能強化を推進します。

- 改築事業 (国)286号(支倉)、(国)347号(筒砂子)、(主)仙台三本木線(落合)、(主)亶理大河原川崎線(村田塩内) 他



(国)286号(支倉)



(主)仙台三本木線(落合)

取組⑥ 交流人口拡大に向けた道路の整備

仙台空港を東北の「空の玄関口」として発展させるため、空港周辺の道路改善などにより機能強化を図り、交流人口の拡大を支援します。

また、自転車を活用した観光地域づくりを通じて、サイクルツーリズムの促進や地域活性化を推進するため、「宮城県自転車活用推進計画」に基づき、自転車通行環境の整備等について取り組みます。

- 改築事業 (主)塩釜亶理線(早股)、(主)仙台岩沼線(愛島北目) 他



仙台空港(名取市・岩沼市)



仙台空港周辺道路の整備
[(主)仙台岩沼線 愛島笠島(1)(名取市)]



自転車走行環境の整備
[(主)塩釜七ヶ浜多賀城線(七ヶ浜町)]



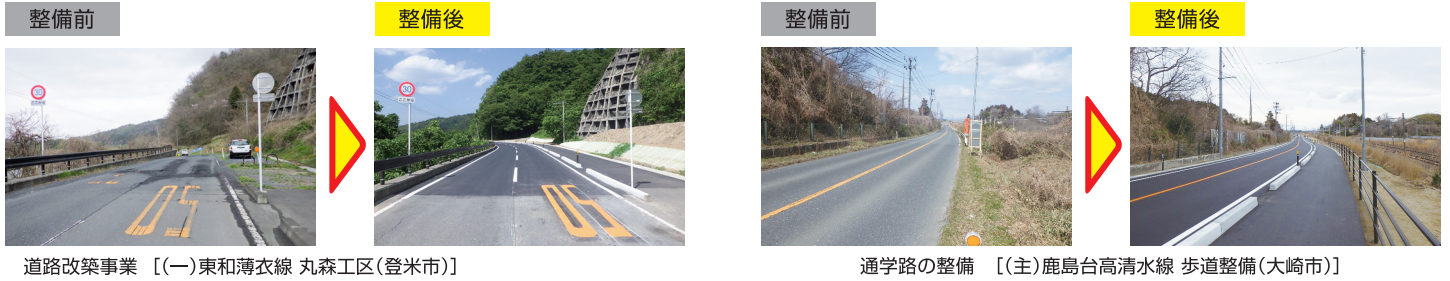
自転車走行環境の整備
[(一)大島浪板線(気仙沼市)]

基本目標③【生活】地域生活を支える道づくり

取組⑦ 地域住民の生活に密着した道路の整備

地域によって異なる道路の問題点や、多様化する県民ニーズに対応するため、地域住民の生活に密着した道路整備等を進めます。道路改築事業として、交通隘路になっている未改良区間や渋滞が発生している区間等について、改良整備を推進します。また、「交通安全プログラム」に基づき、市町村等と一体となり、通学路の歩道整備等の交通安全対策を推進します。

- 改築事業 (一)河南南郷線(軽井沢)、(一)新田米山線(迫町新田)、(一)泊崎半島線(歌津馬場) 他



道路改築事業 [(一)東和薄衣線 丸森区(登米市)]

通学路の整備 [(主)鹿島台高清水線 歩道整備(大崎市)]

取組⑧ 地域住民等と連携・協働した道路の整備

地域協働事業として、地域住民を中心とした検討会(ワークショップ)の開催や現地調査を実施し、地域と共に整備計画を策定するなど、地域の個性や特性を活かし実情に合った道路整備を進めます。また、「みやぎスマイルロード・プログラム」など、地域住民等と連携・協働した道路の整備を進めます。

- 改築事業
(主)白石柴田線(北白川)、
(一)釜谷大須雄勝線(雄勝町桑浜外) 他



道路改築事業(地域協働) [(一)釜谷大須雄勝線(雄勝町桑浜外)]

みやぎスマイルロード・プログラム

宮城県管理道路(県道、一部の国道)の一定区間で、道路の清掃、緑化作業や歩道の除雪などを行うボランティアの皆さんを「スマイルサポーター」として認定し、行政と住民のパートナーシップの構築と、参加住民の町づくりを推進する事業です。

活動区間にはスマイルサポーター名を記した表示板が設置されますので、社会貢献をアピールでき、かつ、道路利用者のマナー向上が図られ、ごみのポイ捨てなどの抑制が期待されます。



(R7.3)

種別	団体数	人員(人)	延長(m)
団体	123	4,776	146,270
個人	9	9	4,545
学校	4	269	3,930
企業	306	7,362	265,329
計	442	12,416	420,074

ネーミングライツ

宮城県では、県有財産の有効活用により歳入確保を図るため、歩道橋のネーミングライツ(歩道橋に愛称を命名する権利)を取得する企業・団体等(パートナーと呼ぶ)を募集しています。

対象企業・団体等は、地域貢献や文化・スポーツの振興、環境保全等の社会貢献活動を行うなどパートナーとしてふさわしい企業・団体等です。



歩道橋	愛称	パートナー
大代歩道橋(多賀城市)	株式会社ごんきや 大代歩道橋	株式会社ごんきや
東小前歩道橋(多賀城市)	ごんきや 家族葬邸宅 デュエ 東小前歩道橋	
町前歩道橋(多賀城市)	ごんきや 家族葬邸宅 デュエ 町前歩道橋	
中谷地歩道橋(気仙沼市)	中谷地歩道橋 住研工業株式会社	住研工業株式会社
愛島笠島歩道橋(名取市)	大友自動車工業 愛島笠島歩道橋	有限会社大友自動車工業
利府第一歩道橋(利府町)	三森コーポレーション 利府第一歩道橋 自動車中古部品・リビルト部品	株式会社 三森コーポレーション

取組⑨ 安全で快適に暮らせる市街地の整備

都市空間の魅力を向上し、「居心地が良く歩きたくなる」空間の整備に向けて、安全安心で快適な都市空間創出の支援に取り組みます。

都市計画マスタープランで位置付けられた都市計画道路に対して、事業効果の高い事業を中心に無電柱化や渋滞緩和対策を推進します。

- 街路事業 (都)小池石生線(末広町)、
(都)北四番丁大衛線(吉岡)、
(都)白石駅東小路線(沢目) 他

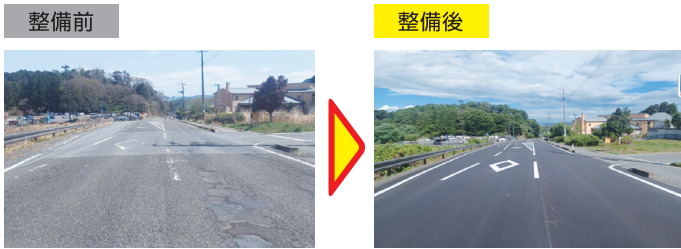


[(都)北四番丁大衛線(吉岡)整備状況]

基本目標4【管理】戦略的ストックマネジメントによる道づくり

取組⑩ 道路施設の適正な維持管理の推進

安全で円滑な交通を確保するため、舗装補修や除草・清掃などの環境整備、除融雪などの適切な維持管理を推進します。また、道路照明灯について、消費電力の少ないLED灯に更新し、温室効果ガスの排出削減やコストを縮減します。



舗装補修 [(一)赤沼松島線(松島町)]



道路照明灯LED化の実施

宮城県道路メンテナンス会議

- 橋梁やトンネルなどの道路施設の老朽化が進む一方で、多くの市町村において、技術職員の不足や、専門的な技術力の向上が重要な課題となっております。
- このため、平成26年6月に県内の道路管理者(東北地方整備局、仙台河川国道事務所、県内市町村、NEXCO東日本、宮城県道路公社及び宮城県)が連携して、「宮城県道路メンテナンス会議」を設立しました。
- 道路インフラ長寿命化の推進、維持管理に関する情報共有・連携を図るとともに、現場見学会や点検講習会などを開催し、技術力の向上に努めています。



パネル展示



点検支援技術現地説明会

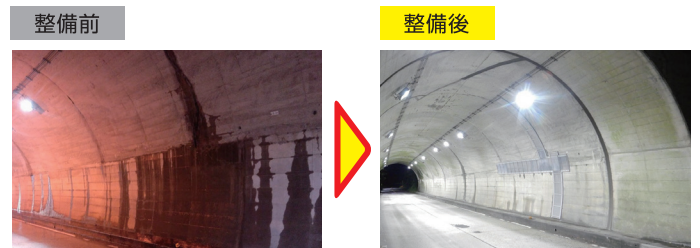
取組⑪ 道路施設の長寿命化対策の推進

高度経済成長期に整備された道路施設の急速な老朽化に対応するとともに、長期にわたって機能を発揮させるため、予防保全型の維持管理へ移行し、ライフサイクルコストを考慮した更新を進めることが必要です。

橋梁やトンネルなどの道路施設について、個別に策定している長寿命化計画に基づき、引き続き計画的に予防保全型の修繕を推進します。



猪鼻橋 [(一)志津川登米線(登米市)]

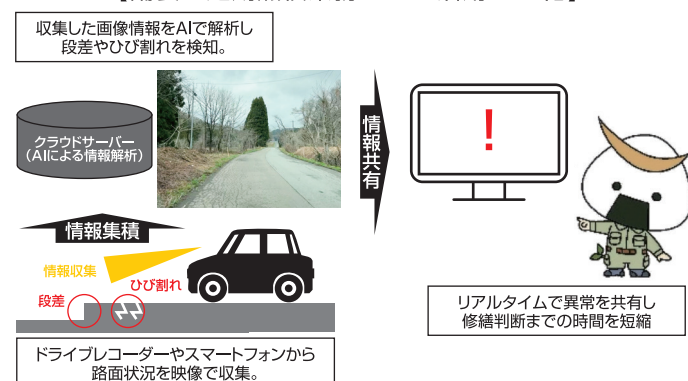


漏水対策の実施 [(国)113号 小原4号トンネル(白石市)]

取組⑫ 新技術を活用した道路施設の更新・管理

道路管理延長の増加や舗装の老朽化により、路面状態に起因する路上事故が増加傾向にあることからAI技術などの新技術を活用した効率的な道路管理に努め、インフラの安全性・信頼性の向上を目指します。

【舗装の定期点検業務へのAI活用・ICT化】



道路などの公共土木施設の異常箇所を発見した際に、手軽に通報できるスマートフォンアプリを導入し、県民参加型のインフラ維持管理を図っています。

【インフラ異常箇所通報アプリ】

